

令和5年度第1回伊勢市子ども・子育て会議 議事録

- 日 時 令和5年8月28日（月） 午後1時30分～午後3時30分
- 場 所 伊勢市役所本庁舎東館5階 5-3・5-4会議室
- 出席委員 中條、秋山、中西、竹内、北川、中北、濱口、下野、前田（晃）、大井戸
- 事務局 健康福祉部
- ・健康福祉部長 江原
 - ・健康福祉部次長 辻村
 - ・子育て応援課 子育て応援係長 畑、
こども育成係長 福田、山本、小岸
 - ・保育課 課長 堀川、課長補佐兼管理係長 濱地
 - ・福祉総合支援センター 副参事 坂本
 - ・健康課 課長 谷、母子保健係長 中川
 - ・生活支援課 課長 濱口
 - ・こども発達支援室 室長 樋口
- 教育委員会事務局
- ・教育総務課 課長 前村、総務係長 谷本、齊藤
 - ・学校教育課 指導主事 北村
 - ・社会教育課 課長 沖塚

議 題

- (1) 第2期伊勢市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について
- (2) 次期「伊勢市の就学前の子どもの教育・保育に関する整備方針・施設整備計画」の策定について
- (3) 第3期伊勢市子ども・子育て支援事業計画策定について
- (4) その他

・事務局より開会挨拶、委員・事務局紹介、資料確認

【事務局より】

議題（1）について説明（資料1-1、資料1-2）

（「●」は委員意見、「(委)」は意見に関する委員の意見、「→」は事務局回答を表す）

●伊勢市健康福祉ステーションの施設利用が複雑であり、交流ひろば利用の際は、入場制限により、子どもが一時的に遊び場の空きを待つ必要があったとのこと。また、子どもを連れていることもあり、自動車の駐車についても大変であるとの意見も聴いたが、当初と比べ、改善等は見られるか。

→人気の遊具は混雑しており、現状は入場制限がある。利用に係るシステムが複雑との声もあったため、8月にシステムの入替えを行った。アンケート調査を継続して行っているが、引き続き、利用者からのご意見を頂戴しながら進めていきたい。

(委) 電車の利用は便利であったが、自動車の利用の際は、駐車場の横幅が狭く感じた。また、交流ひろばでは、子どもが活発に遊んでいるため、入場制限については多少の必要性を感じた。大切なことは、利用が簡単であり、親子で来やすい場所にあることである。

(委) 入場には予約が必要であるが、当初と比べ、直前の予約がとりやすい状況になっている。遊び場のスペースに関しても、子どもが余裕を持って利用できるようにしていく。

●令和4年度の乳幼児の健康教室実施回数目標値が14回に対して、令和5年度は12回となっている。目標値を減らしているがなぜか。

→令和5年度当初の計画段階では、目標値は14回であったが、本資料においては、関係団体からの開催要請数を目標値としているため、現段階で判明している要請数の12回となっている。

(委) 目標であれば、当初の14回でよいのではないか。

→今後、より見やすく示していく。

●ファミリーサポートセンターでは、子どもを預かる提供会員が増えず厳しい状況にあり、1時間の基本利用料金は700円で最低賃金を下回る金額であるため、パート等の掛け持ちが多い状態となっている。また、依頼は子どもの送迎が多いが、依頼会員の複数人の利用が一度にできないことから、ニーズを完全に満たすことについても、対応が難しい。このような実情を踏まえて、送迎をやめ、預かり支援のみとする方がよいのではないか

と感じている。そのため、タクシーの相乗りサービス等の送迎の代わりとなる事業を検討してはどうか。

→提供会員の報酬については、来年度に向けて検討していく。相乗りタクシーについても、事業の現状を踏まえて、議論していきたい。

(委) 提供会員の想いによって成り立っている事業であり、今後についても、国等がある程度の方向性を示す必要がある。

【事務局より】

議題（２）について説明（資料２-１、資料２-２、資料２-３、資料２-４）

●今期の「伊勢市の就学前の子どもの教育・保育に関する整備方針・整備計画」は、教育委員会が策定していたが、次期も教育委員会が策定する予定か。

→今期の計画は、教育委員会を中心に策定したが、次期は教育委員会と保育課で会議の意見等を聴きつつ、策定していく。

(委)「第３期伊勢市子ども・子育て支援事業計画」については、どちらの課が策定するのか。

→子育て応援課で行う。「第３期伊勢市子ども・子育て支援事業計画」における第６章に、「伊勢市の就学前の子どもの教育・保育に関する整備方針・整備計画」を組み込んで策定していく予定である。

●「就学前の子どもの教育・保育に関する整備方針・施設整備計画アンケート」については、どのような方法でアンケートの配布と回収を予定しているか。また、回収率の見込みはどのくらいか。

→「第３期伊勢市子ども・子育て支援事業計画」にあわせてアンケート調査を行う。配布については紙媒体を、回答については、紙媒体もしくはオンラインを予定している。なお、回収率は現状50%を見込んでいる。

●特別支援教育の充実において、専門家による指導・助言とあるが、どのような専門家が例として挙げられるか。また、各施設だけではなく、保護者に対してもアドバイスが必要であると考えるが、どのような状況か。

→こども発達支援室に所属するアドバイザーが、現場へ出向いての指導や、来庁した保護者の方にもアドバイスを行っている。巡回指導については、玉城わかば学園・度会特別支援学校等へ行っており、療育の一環にはなるが、保育所等訪問事業へは、理学療法士

等が行っている。現場における子どもに合わせた支援を行うため、状況にあわせて助言活動を行っている。

(委) 私立等であってもそのような支援を得られるか。

→年2回は巡回指導を行い、連絡があれば、随時、様子を聞かせてもらい、連携会議等で情報共有を行っている。

(委) 障がいを持つ子ども向けのデイサービスの事業があるが、保護者が希望した場合に、学校訪問を行っているか。

→事業所・保育所等を訪問している施設が3箇所ある。利用についても年々増加傾向にある。

【事務局より】

議題(3)について説明(資料3)

- 「第3期伊勢市子ども・子育て支援事業計画」では、どのようにして子どもの意見を反映させるかということが課題である。他市の子ども会議等の場のみでは、子どもの総意をまとめることは難しい。近頃、子どもの意見を親が代わって述べる姿も散見されるが、自らの想いを発信しにくい状況にある子どもや、会議の場以外の子どもの意見を集めるために、アンケート調査の取り組み方について考える必要がある。

(委) 新聞に、子どもの課題解決に係る他市町の子ども会議の様子が掲載されていた。子どもは既存概念に囚われない意見を持っているので、子どもが主張できる場を増やし、その意見を大人が丁寧に拾い上げていく必要がある。

(委) 子どもが意見を発信しやすい環境を作ることも大切である。

- 近頃、地域と子どものつながりが切り離れてしまう環境になりつつあるが、某小学校では地域を学ぶという目的の元、学校行事として地域活動をしている。地域の方々に様々なことを教わるが、ここでは新たな発見があり、別の意味での育ちがある。「地域に学び、地域で育つ」そういった場面を垣間見た。今後、学校はどのようにして地域と関わっていくか。また、地域としても社会情勢を踏まえた、子どもへの対応が課題となってくる。

(委) 地域を学ぶ活動については、当学校の2年生が生活の時間にまち探検をし、校区へ出向いて地域の方々に話を聞いたりする。このような時間がつながりの土台になっていく。また、過去には、「子どもたちとつくる『やさしいまち伊勢市』支援事業」で、バリアフリーを含めた住みよい伊勢市にするためのアイデアの短歌・俳句・作文を募ったものであり、子どもならではの視点が見られた。このように、子どもの意見の吸い上げ方

については、自らの考えを書いてもらうことも必要である。市議会の議会ツアーでも子どもの意見を伊勢市へ要望できる機会があれば良いのではないか。最後に、人材確保については、雇用にも影響があり、非常に重要である。大学・学術機関等とも連携しながら、より良い人材確保に努めてほしい。このような視点も取り入れると新事業の計画にもつながるのではないか。

(委) 伊勢から移住する子どももいるが、その場合でも、何かしらのかたちで伊勢に貢献したいと子どもが思えるような子育てをしていきたい。

【事務局より】

議題（４）について説明、次回開催予定、議事録公開の説明